

震災後の子どもの心のケアを目的 とした保育所等巡回活動について

東部児童相談所 判定指導班

技 師 辰沢 剛

技術主幹 星野 幸雄(地方自治法派遣職員)

技 師 栗原 みゆき(地方自治法派遣職員)

1

事業の背景

○今回の大震災は、子どもたちの心身にとって衝撃的な出来事であった

○さらに、震災後も生活や環境の変化が大きかった

→そのため、子どもたちの心身の変化が心配された

2

事業のねらい

保育所等巡回活動により、

- ・子どもの心のケアに関する理解の促進
- ・子どもへの関わり方の確認
- ・保育者の不安の緩和
- ・必要な支援へのつなぎ

などができると考えた

3

事業内容

＜東部児童相談所

子どもの心のケア巡回活動実施要領＞

1 目的

○各保育所、幼稚園に当所児童心理司及び自治体からの派遣職員が訪問し、児童の行動観察や情報交換を行い、保育者が安心して適切な保育と心のケアを行えるように技術支援を行う。

4

2 対象施設:

- 石巻市・東松島市・女川町の公立認可保育所
- 石巻市・東松島市・女川町の巡回活動を希望する私立認可保育所及び幼稚園
- 登米市の巡回活動を希望する保育所

3 実施期間: 平成23年4月～平成24年3月31日

○震災直後の実施の後には、概ね3か月後、6か月後、9か月後、1年後の時期に、市町と各施設から訪問希望の有無を確認し、実施。

5

4 活動内容:

(1)実施体制及び活動内容

○当所児童心理司及び自治体等からの派遣職員による保育所等での行動観察や情報交換

○保育所に通う子どもの保護者向けに、当所職員による個別相談の実施案内を配付

○市町や保育所の希望に応じ、子どもの心のケアに関する研修会への講師派遣

6

(2)記録及び市町との連携

○活動内容は別紙『活動日誌』及び別紙『個別相談票』に記入をする。

○活動内容と気になる児童については、市の保育所担当者及び母子保健担当保健師にフィードバック。

子どもの心のケア 巡回活動日誌

活動日	平成23年 月 日	保育所・幼稚園名:
訪問者	(所属)	
記録者	(所属)	
応対者		
保育所の状況 (建物・人的被害・ライフライン・開所日・職員の状況など)		
全体的な児童の状況 (個別に相談されたケースは別紙記載)		
支援内容		
特記事項		

個別相談票

児童名	ふりがな	男・女	日	年 月 生
				(年少・年中・年長) 年齢 歳
住所				
<被災状況>				
家屋				
家族				
その他				
<相談事項及び所見>				
主訴 (誰が何を心配・困っているか) 及び子どもの状況				
所見				
対応				

記録者 _____

事業実施状況

<訪問施設数及び職員数(延べ)>

	1巡目 施設数	2巡目 施設数	3巡目 施設数	施設数計
石巻市	31	20	8	59
東松島市	17	8	8	33
計	48	28	16	92
	職員数:102	職員数:59	職員数32	職員数計:193

- * 1巡目(震災直後):厚労省による自治体等派遣職員 29人(実)が週替わりで実施
- * 2巡目(概ね3か月後):当所職員と地方自治体派遣職員 6人(実)で実施
- * 3巡目(概ね半年後):地方自治体派遣職員2人(実)で実施

<出前保育に同行した回数(女川町)>

○9か所 25回

<講師派遣を行った回数>

○保育者向け研修会

1回(登米市):参加者数 140名程度

○保護者向け研修会

2回(東松島市):参加者数 50名程度 / 40名程度

○個別相談として挙げられた子どもたち

・延べ125件(実79人)

・1, 2歳児に比べて, 3歳以上児の相談が多い。

・相談内容としては(重複あり),

震災に関連する事柄 75件(60%)

発達の問題に関連する事柄 48件(38%)

家庭環境の問題に関連する事柄 36件(29%)

○個別相談の他に、気になる様子があるとして

挙げられた子どもたち

- ・延べ155件(実115人)
- ・気になる様子があるとして挙げられた子どもたちは、個別相談に至った子どもたちの数よりも多い
- ・1, 2歳児に比べて、3歳以上児の方が多い

・相談内容としては(重複あり),

震災に関連する事柄	73件(47%)
発達の問題に関連する事柄	53件(34%)
家庭環境の問題に関連する事柄	50件(32%)

13

<巡回活動を通して見えてきたこと>

○子どもたち全体の様子

* 施設再開直後から3か月までの時期

- ・行動観察上は比較的落ち着いているように見えた
保育者の話でも、全体としては時間の経過とともに落ち着いてきているとのこと
- ・震災に関連するごっこ遊びや会話は多く見られたが、遊びとして明るい雰囲気の中でしていることがほとんど

14

* 相談に寄せられた震災に関する子どもの反応

- ・余震や物音への怯え, 避難訓練時の怯え
- ・分離不安: 親や保育者から離れられない等
- ・退行(赤ちゃん返り):
甘えが強まり, 食事や排泄, 着替えなどの面で,
以前の幼い状態に戻ってしまった等
- ・睡眠の問題: 午睡ができない, 夜, 興奮して眠れない等
- ・無表情, 無気力
- ・チックや頻尿などの身体症状

15

* 相談に寄せられた震災に関する子どもの反応

- ・親を亡くした子ども自身は, 気丈に振る舞っている事例が多かった。
ただし, 保育者の不安として,
子ども本人から, 「ママは?(パパは?)」と聞かれたときに, どのように返してあげれば良いかとの声も
- ・大切なものを袋に入れて保管しておくという子ども
なりの対処行動の報告も

16

* 相談に寄せられた震災に関する子どもの反応

- ・震災後6か月を過ぎても, 家族を亡くした子どもたちなどについては, 心配な様子も聞かれた。

例: 母親を亡くした3歳の男の子

保護者が参加する行事などで他の子の親を見ると, その後数日間 表情が乏しくなり, 保育者から離れられなくなる

17

○施設全体のことについて

* 震災直後から施設再開までの時期

- ・保育所, 幼稚園自体が津波被害
- ・子どもの命を守るために保育士が奮闘
- ・保護者の引き取りにも数日を要したところも
- ・再開に向けて, 建物内外の泥かきや床の張り替え
- ・建物が使用不能となった施設は, 保育場所を確保

18

* 施設再開後

- ・4月には多くの施設が再開
- ・定員超過での受け入れにより、保育室は手狭に
- ・複数の保育所で合同保育を行っている施設では、保育の進め方に難しさも
- ・他の保育所から受け入れた子どもについては、以前の状況が分からずに戸惑いも

19

○保育者の状況について

* 震災直後から施設再開までの時期

- ・自宅が被災し、身内を亡くした方もおり、自分の生活の立て直しと同時進行での再開準備
- ・保育所再開の直前まで、避難所運営の補助
- ・同僚間で被害に差があり、お互いに戸惑い
- ・家庭を後回しにしていることへの自責の念

20

* 施設再開後

- ・再び震災が起きたときに子どもの安全を守りきれるかどうかという不安：責任の重さを再認識
- ・過度の甘え等、震災後の子どもの反応への負担感

* 半年以降

- ・疲れの蓄積
- ・気持ちの整理の難しさ
- ・自分だけ取り残されているような感覚

21

<事業の効果(施設側の評価)>

○巡回活動を行った61か所の保育所、幼稚園の管理者と保育者を対象に、アンケート調査を実施中

○集計結果(途中)

集計数(1月24日時点):37か所(61%)

問:「巡回活動は役に立ったと考えますか」

	管理者	保育者
大変役に立った	13(35%)	49(17%)
おおむね役に立った	19(51%)	191(65%)
あまり役に立たなかった	5(14%)	47(16%)
全く役に立たなかった	0(0%)	5(2%)
計	37	292

22

<事業の効果(当所としての振り返り)>

保育所等巡回活動により、子どもの心のケアに関する保育者の理解を促進でき、子どもへの関わり方についても確認できた。これにより、保育者の不安が軽減され、より安心して適切な保育と心のケアを行うことができたのではないかと考える。

23

課題

○大規模災害時の支援体制の構築

- * マンパワーの確保
- * コーディネートを担う人材の確保
 - ・重要事項や配慮すべき事項の確認
 - ・目的意識の共有 等
- * 被災した保育者自身の心のケア
- * より効果的な支援内容の検討

24